



岡山大学記者クラブ

文部科学記者会

科学記者会

御中

令和 7 年 8 月 22 日

岡 山 大 学

## 救命の一步を軽くする 全自動型 AED がもたらす変化

### ◆発表のポイント

- ・心停止時の AED 使用で、全自動型 AED は一般市民の「ボタンを押すためらい」を軽減しました。
- ・一般市民は全自動型 AED を好み、医療従事者は半自動型 AED を選ぶ傾向にあることが分かりました。
- ・全自動型 AED の普及と講習内容の見直しが、今後の救命率向上に必要です。

心停止から命を救うには、一般市民による迅速な初期対応と、電気ショックを行う AED（自動体外式除細動器）の早期使用が欠かせません。AED には、救助者がボタンを押す「半自動型」と、機械が自動でショックを行う「全自動型」の 2 種類があります。「全自動型」は 2021 年から日本で導入され、公共施設で広がりつつありますが、まだ一般市民にはなじみが薄く、非医療者である一般市民が使う際の使用感や心理的負担を比較した調査はありませんでした。

岡山大学学術研究院医歯薬学域（医）地域二次救急・災害医療推進講座の野島剛講師（特任）と同学域救命救急・災害医学の中尾篤典教授らの研究グループは、国内初となる両タイプの使いやすさ比較調査を実施。その成果は国際医学誌『*Internal Medicine*』に掲載されました。

2021～2022 年に行われた心肺蘇生講習で、443 人（医療従事者 47 人、一般市民 396 人）が両タイプを体験。一般市民は「全自動型」を好み、ボタンを押すためらいが減る傾向が見られました。一方、医療従事者は、使い慣れた「半自動型」を選ぶ傾向があり、「全自動型」は危険と感じる声もありました。

今回の研究は、一般市民にとっては「全自動型」AED が使いやすく、救命のスピードと成功率を高める可能性を指摘しました。しかし、現状の心肺蘇生講習で「全自動型」の教育がほとんど行われていない課題もあり、誰もが迷わず AED を使える社会へ向け、講習内容の見直しを提言しています。

### ◆研究者からのひとこと

心停止では、ためらわず迅速に対応できるかで、その人の運命は大きく変わります。全自動型 AED は、機械が自動的にショックを行うので、みなさんの「ボタンを押す」という心理的な負担を減らしてくれます。市民にとって使いやすいことから今後の普及が期待されます。

「いざという時に分からない」では救命できません。ぜひ、全自動型 AED の使い方を今後、講習会などで一緒に学んでいきましょう。



野島講師（特任）



中尾教授



## PRESS RELEASE

### ■発表内容

#### <現状>

心停止の際に必要な早期除細動は、生存率向上のために極めて重要です。しかし、日本での院外心停止における AED 使用率は約 10%にとどまっています。AED には、救助者がボタンを押す「半自動型」と、機械が自動でショックを行う「全自動型」があり（図 1）、全自動型は 2021 年に日本で導入されたばかりで普及は限定的です。これまで両タイプの使いやすさや心理的負担を比較した調査は行われていませんでした。

#### <研究成果の内容>

岡山大学の研究チームは、2021～2022 年に心肺蘇生講習を受けた 443 人（医療従事者 47 人、一般市民 396 人）を対象に、半自動型と全自動型 AED の比較調査を実施しました。その結果、一般市民は全自動型を好み、ボタンを押すためらいが減る傾向が見られました。一方、医療従事者は使い慣れた半自動型を好み、全自動型に慎重な意見もありました。両群とも全自動型に好意的な意見を持つ一方、現行の講習では全自動型の教育がほとんど行われていない実態が明らかになりました。



図 1. コースで使用したトレーニング用 AED（引用：日本光電株式会社）。[A] 半自動型（従来型）AED（TRN-3100）、[B] 全自動型 AED（TRN-3150）、[C] 全自動型 AED を示すロゴマーク（引用：一般社団法人電子情報技術産業協（JEITA））

#### <社会的な意義>

全自動型 AED は、救助者の心理的負担を軽減し、ためらいによる除細動遅延を防ぐ可能性があります。特に一般市民にとっては、迅速な除細動を可能にし、救命率向上に寄与することが期待されます。本研究は、日本における全自動型 AED の普及促進と、市民講習での教育内容改善の必要性を示すものであり、誰もが迷わず AED を使える社会の実現に貢献します。



## PRESS RELEASE

### ■論文情報

論文名 : Differences in the Usability of Fully Automated External Defibrillators between Medical and Nonmedical Professionals

掲載紙 : *Internal Medicine*

著者 : Tsuyoshi Nojima, Takafumi Obara, Takashi Hongo, Tetsuya Yumoto, Hiromichi Naito and Atsunori Nakao

D O I : <https://doi.org/10.2169/internalmedicine.4578-24>

U R L : [https://www.jstage.jst.go.jp/article/internalmedicine/64/13/64\\_4578-24/article](https://www.jstage.jst.go.jp/article/internalmedicine/64/13/64_4578-24/article)

#### <お問い合わせ>

岡山大学学術研究院医歯薬学域（医）

地域二次救急・災害医療推進講座 講師（特任） 野島 剛

（電話番号）086-235-7427



岡山大学  
OKAYAMA UNIVERSITY



岡山大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

